

## 〈1〉 米中経済の相互依存関係を踏まえた 貿易戦争の現状と今後の展望

名古屋外国語大学 外国語学部 中国語学科 教授 真家 陽一

### はじめに

中国は今年、1978年の「改革開放政策」への転換から40周年を迎えた。この間、中国は同政策により、外国からの対内直接投資を通じて技術、資金、経営管理を取り入れることで、貿易を拡大させ、急速な経済成長を成し遂げ、2010年には国内総生産（GDP）で日本を上回り、米国に次ぐ世界第2位の経済大国に躍進した。

1978年にわずか206億ドル、世界第29位だった中国の貿易総額は、2017年には4兆1,050億ドルと約200倍に拡大、今や世界第1位の貿易大国だ。その中国の最大の貿易相手国が米国である。1978年に10億ドルに過ぎなかった米中貿易は2017年には5,837億ドルと600倍近くまで増加した。

中国は3月5日から開催された全国人民代表大会（全人代、国会に相当）に提示された「政府活動報告」において、2018年度の政府活動案の一つとして「全面的開放の新たな形態の形成推進」を掲げ、「いっそう広い範囲、高い段階の開放を図り、開放の構造・配置と体制・仕組みをさらに整備し、ハイレベルの開放で質の高い発展を促進する」という方針を打ち出し、改革開放40周年を契機に、世界経済におけるプレゼンスをさらに高めようとしている。

そうした中、中国は現在、最大の貿易相手国である米国との間で貿易摩擦問題を抱えており、相互に制裁関税を発動し合う「貿易戦争」のステージに突入している。中国の貿易は、基幹部品を輸入し、それを基に組み立てた完成品および相対的に安価な人件費を活用した労働集約型製品を輸出する一方、ハイテク製品や資源・エネルギー、食糧を輸入するというのが基本的な貿易構造であり、対米貿易も同様である。制裁関税の対象品目には、半導体などの米中間のサプライチェーンに関わるIT（情報通信）関連製品も含まれている。このため、制裁関税の発動は、中国企業のみならず米国企業にも打撃を与えており、その成り行き次第では米中経済だけでなく、世界経済にも大きな影響が及ぶ恐れがある。

本稿はこうした状況を踏まえ、まず、世界の貿易・投資における米中の位置付けおよび両国の貿易・投資関係の実態を統計データに基づいて分析することで、サプライチェーンと相互依存の状況を把握する。

また、貿易戦争のトリガーともなった中国の産業高度化政策「中国製造2025」の内容を確認した上で、制裁関税の発動を中心とした一連の米中貿易戦争の動向を概観し、その本質は次世代のハイテク産業をめぐる米中の覇権争いであることを検証する。

さらに、米中貿易戦争により、中国の「対外開放戦略」が転換点を迎える中、ハイテク製品の国産化が重要な政策課題となっていることを指摘した上で、今後の焦点として、中国が追い付くことを目指す「半導体」、追

い越すことを狙う「第5世代移动通信システム（5G）」の動向について考察する。

## 1. 世界経済における米中の位置付けと貿易・投資関係の実態

米中貿易戦争の問題の考察に当たり、まず世界経済における米中の位置付けおよび両国の貿易・投資関係の実態を統計データ等に基づいて数字で客観的に把握しておく。

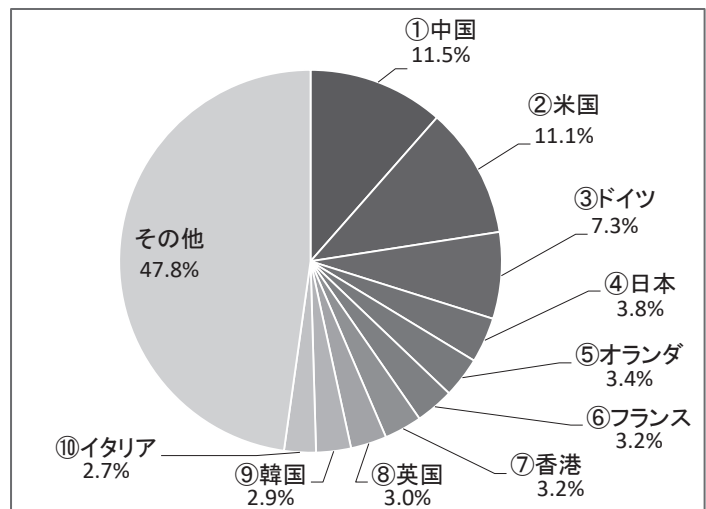
### (1) 世界貿易の二強として存在感を増す米中

世界貿易における米中の位置付けを確認しておこう。世界貿易機関（WTO）によれば、2017年の貿易総額は中国が4兆1,050億ドルで第1位（シェア11.5%）、米国が3兆9,560億ドルで第2位（シェア11.1%）。第3位はドイツだが、2兆3,150億ドル（シェア6.5%）と米中の6割弱にとどまっており、世界貿易においては米中二強が抜き出ている（図表1）。

輸出入別に見ると、輸出では中国が2兆2,630億ドルで第1位（シェア12.8%）、第2位の米国（1兆5,470億ドル、シェア8.7%）の約1.5倍とダントツの1位だ。「世界の工場」としての商品供給力は世界の中でも突出しており、「メイド・イン・チャイナ」の製品は世界中に溢れている。

他方、輸入では米国が2兆4,090億ドルで第1位（シェア13.4%）、第2位の中国（1兆8,420億ドル）を3割以上上回る「世界の市場」であり、巨大なバイイングパワーを誇る（図表2）。

（図表1）世界貿易の国・地域別シェア（2017年）



（出所）世界貿易機関（WTO）

（図表2）世界の輸出入別貿易ランキング（2017年）

順位	輸出				輸入			
	国・地域	金額	シェア	伸び率	国・地域	金額	シェア	伸び率
1	中国	2,263	12.8	7.9	米国	2,409	13.4	7.1
2	米国	1,547	8.7	6.6	中国	1,842	10.2	16.0
3	ドイツ	1,448	8.2	8.5	ドイツ	1,167	6.5	10.5
4	日本	698	3.9	8.3	日本	672	3.7	10.6
5	オランダ	652	3.7	14.1	英国	644	3.6	1.2
6	韓国	574	3.2	15.8	フランス	625	3.5	9.2
7	香港	550	3.1	6.5	香港	590	3.3	7.8
8	フランス	535	3.0	6.7	オランダ	574	3.2	13.7
9	イタリア	506	2.9	9.6	韓国	478	2.7	17.8
10	英国	445	2.5	8.6	イタリア	453	2.5	11.2
	全世界合計	17,730	100.0	10.6	全世界合計	18,024	100.0	10.7

（単位）10億ドル、%

（出所）図表1に同じ

## (2) 相互依存関係を深める米中貿易

世界の2大貿易大国である米国と中国はお互いに何を買い、何を売っているのか。中国の2017年の貿易統計から検証してみよう。貿易面からみると、中国にとって米国は輸出で第1位、輸入で第4位、総額では第1位の重要な貿易相手国となっている。また、貿易黒字も第1位となっている（図表3）。

なお、貿易黒字については、香港が第2位となっているが、この中には香港経由で米国に輸出されるものも含まれることから、実際の貿易黒字はさらに大きくなる。

(図表3) 中国の主要国・地域別輸出入（2017年）

	国・地域	貿易総額	シェア	伸び率	輸出	シェア	伸び率	輸入	シェア	伸び率	貿易収支
1	米国	583,701	14.2	12.3	429,758	19.0	11.5	153,943	8.4	14.5	275,815
2	日本	302,987	7.4	10.1	137,334	6.1	6.1	165,653	9.0	13.7	▲ 28,319
3	香港	286,608	7.0	▲ 5.7	279,292	12.3	▲ 2.8	7,316	0.4	▲ 56.2	271,976
4	韓国	280,282	6.8	10.9	102,774	4.5	9.7	177,507	9.6	11.7	▲ 74,733
5	台湾	199,389	4.9	11.3	43,991	1.9	9.3	155,398	8.4	11.9	▲ 111,407
6	ドイツ	168,099	4.1	11.1	71,145	3.1	9.0	96,954	5.3	12.6	▲ 25,808
7	オーストラリア	136,264	3.3	25.9	41,442	1.8	11.0	94,822	5.2	33.7	▲ 53,380
8	ベトナム	121,267	3.0	23.4	70,939	3.1	16.1	50,328	2.7	35.4	20,610
9	マレーシア	96,027	2.3	10.5	41,725	1.8	10.8	54,302	2.9	10.2	▲ 12,577
10	ブラジル	87,543	2.1	29.1	28,958	1.3	31.8	58,585	3.2	27.8	▲ 29,627
	全世界合計	4,104,475	100.0	11.4	2,263,490	100.0	7.9	1,840,985	100.0	15.9	422,506
	(参考)										
	EU	616,919	15.0	12.7	372,049	16.4	9.7	244,870	13.3	17.6	127,179
	ASEAN	514,769	12.5	13.8	279,075	12.3	9.0	235,694	12.8	20.1	43,381

(単位) 1,000ドル、%

(出所) 中国海関統計より作成

実際、2017年における香港の対米輸出額は3,302億香港ドル（1香港ドル＝約13円）と、香港の輸出総額の8.5%を占める。このうち、他国・地域から香港を経由する再輸出額は3,267億香港ドルと対米輸出額全体の99.0%を占め、香港の対米輸出のほとんどは他国・地域原産品になっている。再輸出の中で最も多いのが中国原産品であり、米国向けの再輸出額は2,775億香港ドルと、全体に占める比率は85.0%に達している。

次に、中国の米国向け主要貿易品目（HSコード4桁ベース）をみてみよう。中国は基幹部品を輸入し、それを基に組み立てた完成品および相対的に安価な人件費を活用した労働集約型製品を輸出する一方、ハイテク製品や資源・エネルギー、食糧を輸入するというのが基本的な貿易構造である。

対米貿易も同様であり、中国の輸出品目としては、電話機（携帯電話等）、自動データ処理機械（パソコン等）の上位2品目がずば抜けて多く、対米輸出に占めるシェアはそれぞれ10.7%、10.3%となっている。これらの製品は輸入した集積回路などの基幹部品を基に組み立てた完成品がほとんどだ（図表4）。注目すべきは対米輸出品目に米系企業の製品も含まれている点である。特に、アップルやヒューレットパッカード、デルといった「ITジャイアント」企業の製品が中国の対米輸出に占める割合は大きい。実質的にはいわば「米米貿易」とも言えるだろう。つまり、米中貿易不均衡の一端は、中国で製造された米IT企業の製品を米国に「逆輸入」しているという「米国企業内貿易」にある。

この2品目以外では、テレビ・モニター等の組立完成品、腰掛け、玩具、バッグ類といった労働集約型製品が上位に並んでいる。中国の対世界輸出に占める米国のシェアを品目別に見ると、電話機（携帯電話等）が21.0%、自動データ処理機械（パソコン等）が31.3%、テレビ・モニター等が33.0%と、上位20品目はそれぞれ15～30%以上のシェアを占めており、中国にとって米国は重要な輸出先であると同時に、米国にとっても